

沖縄から全国に発信できる医療を行います。



沖縄県立南部医療センター・
こども医療センター 院長
安次嶺 馨 先生

約束の時間より早く医療センターへ到着したので、院内を見学することができた。広く吹き抜けの待合はすばらしく、センターの担う医療に対する期待が大きくなる感じがした。

放射線科を訪れ、かつての同僚に案内してもらった。最新のCT装置、これから稼働する予定の放射線治療装置などを見せていただき、医療センターの進もうとしている道筋が見えてきた。

インタビュアー：広報担当副会長 玉城 信光

1. 救急医療について

玉城：先生こんにちは。大変すばらしい施設を見せていただきました。あまりに広すぎて職員も道に迷うと言っていました。

これだけ素敵な病院だと患者さんもよろこんで来院すると思います。医療センターの開設から2ヶ月になりましたが、現況はいかがですか。

安次嶺：2ヶ月経ち、ようやく、病院の機能が落ち着いてきました。新病院には多くの新しい職員が増え、また他の県立病院からの異動もあり、チームワークを築くのに時間がかかりましたが、職員は予想以上に新病院に適応してくれました。

新しい病院の電子カルテシステムのトラブルも次第に回数が減ってきています。6ヶ月ほどするとフル稼働できるのではないかと思います。

PROFILE

昭和17年	沖縄県那覇市に生まれる
昭和36年	那覇高等学校卒業
昭和42年	鳥取大学医学部卒業
昭和44年～46年	沖縄県立中部病院研修医
昭和46年～49年	シカゴ市マイケル・リース病院小児科研修医
昭和50年	沖縄県立中部病院小児科医長
平成8年	同病院副院長
平成15年	同病院院長
平成16年	沖縄県立那覇病院 院長
平成18年	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 院長
現在	ハワイ大学医学部小児科臨床教授 米国小児科専門医 日本小児科学会評議員 日本未熟児新生児学会理事 日本小児救急医学会理事 日本周産期新生児学会評議員 日本小児保健学会評議員 沖縄県小児保健協会理事
専門分野	新生児学、小児科学
趣味	写真（蝶）、音楽鑑賞



病院全景写真

現在外来患者が1日350～450名ほどです。救急が70～130名ほど、病床稼働率が70%です。

玉城：小児の救急が殺到して先生方が疲弊しているようなお話も聞きましたが、いかがですか。これだけきれいな病院だとこちらに来たくなる気持ちもわかりますが。

安次嶺：最初から初期救急をみないということはできないので、患者さんに理解していただいて、「軽症の場合はこちらにいらしても、待ち時間が長くなりますよ」とお願いしているところです。このようなこともあり、最近は少し落ち着いたのでないかとも考えています。

玉城：先日、うちの看護師さんが、「子供が熱発したので、近いからと医療センターに行って長いこと待たされた。」と話していました。私

は「だめだよ！あそこは難しい病気を見るところだから、軽い病気は他の病院にいきなさい。」と話しておきました。

安次嶺：6月1日に那覇南部地区小児科医の意見交換会を開催し、救急の連携について話し合います。今後もこの会議を持って小児救急体制の充実に努めたいと思います。

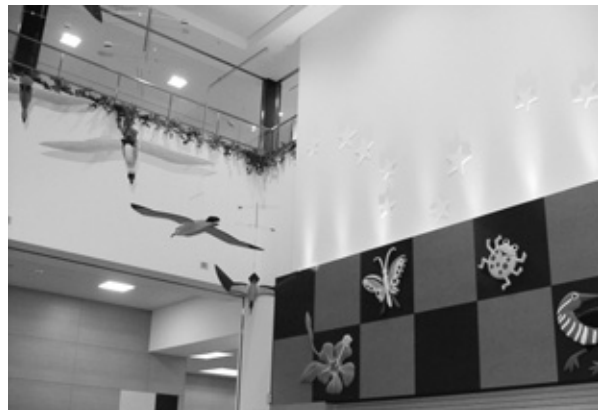
2. こども医療センターの使命は

玉城：小児の救急も大切ですが、こども医療センターが持っているその他の高次機能を高めていくことも大切だと思いますが、どのように機能のアップに努めていけますか。

安次嶺：そうですね。誰もが“こどもに関してはこの病院だ”という認識を持つようにしたい



こども医療センター 外来



こども医療センター 外来



玉城副会長



安次嶺院長

ですね。そのために那覇病院に加えて琉球大学や中部病院から優秀な先生方を結集してスタートしました。沖縄県全体のこども医療のためには内容の充実が絶対に必要になります。

玉城：このこども医療センターで生き生きと医療に専念できる環境が出来上がると、現在少ないといわれている小児科を希望するドクターが増えてくると思います。

安次嶺：そうですね。それは僕も大事なことだと思います。多忙のためにくたびれていると、ドクターや職員自身も生きがいをなくしていきます。このようなきれいな病院でアメニティーもよく、重症患者のことなどもしっかりと教育してくれるようなところは、若者の教育の場としても大切なことだと思います。

実は、パイロン青木先生というコンサルタントがこども医療センターにいます。先生はハワイ大学の元准教授で小児の救急や集中治療、新生児医療にとっても詳しいのです。こども医療センターの小児科は大変レベルアップすることが予想されます。

玉城：そうですね。こどもの医療が大変レベルアップすると大人部門の南部医療センターの診療内容も変化してこざるをえませんね。これまでの、たくさんのお客さんを診ることで収入を上げるというような薄利多売的診療ではなくて、難しい疾患を多く診ていくということが大切だと思われます。他の病院から紹介を受けるような診療の質の高さが必要になるでしょう。

安次嶺：そうです。どこでもやっている医療というのはいずれ減って行って、最先端医療をこ

こで引き受けていくようにしなければいけないと思っています。

玉城：放射線機器もすごく良いものがそろっているんで、医師も放射線科その他のスタッフもどんどんレベルを上げて、よその病院から多くの研修生を受け入れることをして欲しいと思います。

安次嶺：心臓の治療に関しては大変期待がもてますよ。バイパスグラフトをした患者さんの血流が直ちに見える機器があり、手術の成否がすぐわかるのです。現在、週に3回ほど心臓の手術をしているのです。小児の心臓も含めて今後ますます仕事が増えていくでしょう。多くの研修医やローテーションの医師が必要になってくると思います。

3. 人材育成、研修などをどのように計画していますか。

安次嶺：これまでは初期研修の救急教育の場としては中部病院の指導をいただきながら進めてきました。後期研修に関しても中部病院と本院で合同のプログラムを組んで研修する計画にしています。

先日、沖縄県医師確保対策検討委員会が開かれました。沖縄県、県医師会、県立病院、県公務員医師会、琉球大学などが参加していますので、今後、県内の各施設が一緒になり人材育成、医師確保の事業が展開されると思います。

玉城：先日、医療センターの麻酔科の村田先生が話していたのですが、沖縄県では離島に対して麻酔科の配置で困ったことはないと話してお

りました。それは麻酔科の教授と県立病院との話し合いで、琉大の麻酔科のドクターは必ず離島での2年間勤務を義務付けたとのことでした。それで自分の生活設計に依じて、子供が小さいときに離島勤務を希望して、教育の問題が出そうなときに本島に戻ってくるような話でした。また、離島に勤務した後は優先的に本人が希望する病院に配置してくれるようです。

安次嶺：実はその話は那覇に来て私もわかったのです。麻酔科に関して県立病院は琉大に大変感謝しなければいけないと思います。これまでは県立病院と琉大は多少いがみ合っていることがありましたが、これからは仲良く沖縄の医療支援をしていけたら良いと考えています。

玉城：先日の会議には私も参加していたのです。これまで中部病院で多くの自治医大出身の医師を育ててきていますが、義務年限が終わった後は自由にしていっていいとっていますが、ある意味では無責任に放り出していることになりません。そこで専門医研修の意味も含めて、琉大の先生方に話をしてみました。自治医大卒医師の義務が終わった10年目のドクターでも医局に入れてもらえますかと。もちろん専門医コースを研修するモチベーションの高い人なら大歓迎だといっていました。

琉大以外にも県内には多くの専門医養成のできる医療機関があると思われますので県医師会が後期研修の中でそれらの医療機関の紹介ができるようにしたいと考えています。

安次嶺：そうですね。各医療機関の宣伝ではな

く、医師会という第3者機関があらゆる情報を持って後期研修を受けたい医師の仲介ができるといいですね。

玉城：長崎県の離島医療センターでの医師募集案内の中に面白いことがありました。2年の勤務年限ですが、1年半勤務すると6ヶ月の研修ができるし、また長崎大学と一緒に、離島医療を基にした研究で博士号がもらえるシステムもあるとのことでした。

安次嶺：インセンティブですね。中部病院では初期研修をやり、宮古や八重山へ送りますが、そのあとのことは面倒を見ないで自由にごどうぞということでしたが、これからはその後の進路なども考えていかなければいけないですね。

玉城：県立病院にポストがなければ、沖縄県全体で後期研修のポストを考えることができたらいいいですね。

安次嶺：医療センター内に「離島医療支援センター」が設置されますが、離島医師の派遣に関しても離島の病院の採用という形ではなく、南部医療センターに脳外科や産婦人科医師を採用して、離島へ派遣するという形で人事のローテーションを図っていこうと思っています。

玉城：これからは県立病院、琉大病院、民間の医療機関などが一緒になり、沖縄県全体の医師確保をしていかなければいけないと思います。その中でも南部医療センター・こども医療センターの役割は大きいと思います。

それで、先生方の宣伝に県医師会としても一役買わせてください。県医師会報の生涯教育コーナーや新聞の「命ぐすい耳ぐすい」コーナー、「うちなー健康歳時記」コーナーなどに、こども医療センターではこんなことをしていますよと書いてくれませんか。広報委員会としても大変助かります。

安次嶺：よろこんで引き受けましょう。書ける人はたくさんいますよ。

玉城：本日は長い時間ありがとうございました。南部医療センター・こども医療センターの活躍を応援しています。



こども医療センター 外來